

直播栽培に適する東北地域向け稲発酵粗飼料用品種「べこあおば」



水田利用部 稲育種研究室 電話0187-66-2773

研究のねらい

飼料自給率を向上できる転作作物として飼料イネが注目されているが、現在育成されている飼料イネ品種は晩生のものが多い。

そこで、東北地域における飼料イネ生産を促進するために、できるだけ熟期が早く低コストで栽培可能な東北地域向けの飼料イネ品種を育成する。

成果の内容

- ①「べこあおば」(水稻農林408号)は、2005年に東北農業研究センターで育成された、“中生の晩”に属する稲発酵粗飼料専用品種である。
- ②短稈で倒伏に強く、直播栽培に適する。移植栽培におけるTDN収量(消化吸収可能な粗飼料の収量)は「ふくひびき」より1割程度多収である。
- ③玄米は大粒であるため(図2)、一般品種との識別性がある。
- ④耐肥性に優れ、家畜ふん堆肥を投入した多肥条件でも倒れず、窒素吸収量が高いほど乾物重が多い(表1)。



図1 「べこあおば」の草姿



図2 玄米と籾
(左から、べこあおば、クサユタカ、ふくひびき)

成果の利活用

- ①耐肥性に優れることから、耕畜連携での家畜ふん堆肥を施用した多肥栽培などに適している。
- ②安定した収量と栄養価を得るために、黄熟期以降に収穫を行う必要がある。
- ③いもち病抵抗性遺伝子Pita-2をもつが、圃場抵抗性が弱いので発病を見たら防除等の対策が必要である。

表1 家畜ふん堆肥施用時の窒素吸収量と乾物重

試験区 (施肥量:N成分 kg/10a)	倒伏 (0-4)	黄熟期 窒素吸収量 (Ng/m ²)	黄熟期 乾物重 (g/m ²)
標肥(12)	0	16.6	1635
多肥(16)	0	18.2	1707
極多肥(18)	0	19.2	1737

各試験区は、未熟堆肥3.6t/10aに各施肥量(基肥+追肥)を施用。